



2023

第75期 報告書
2022年4月1日～2023年3月31日

ティアック株式会社
証券コード: 6803



株主の皆様には日頃より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は2023年3月31日をもちまして、第75期（2022年4月1日から2023年3月31日まで）を終了いたしましたので、ここに当社グループの事業の概況につきましてご報告申し上げます。

代表取締役社長
英 裕治
Hanabusa Yuji

当期業績について

当連結会計年度におけるわが国経済は、ウィズコロナの下で各種政策の効果もあって景気が持ち直していく動きが見られましたが、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れがわが国の景気を下押しするリスクとなっています。また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要があります。

このような状況の中で当社グループは、音響機器事業のうちハイエンドオーディオ機器事業は、次世代アンプのラインナップ拡充と新規ターンテーブルカテゴリーへの挑戦で更にブランド価値を高め、海外市場を伸ばす事で堅実な成長路線を引き続き目指してまいりました。プレミアムオーディオ機器事業は、引き続き中高級機のReferenceシリーズの更なる強化と、特色のあるアナログ製品や、すべてのカテゴリーにおいて新製品が競合に比べ常に個性的な価値を持つ事を目指し、収益とブランドイメージの向上に努めてまいりました。音楽制作・業務用オーディオ機器事業は、BtoC市場においては、ミュージシャンや動画制作者などのクリエイター向けに新たな付加価値を追加した商品群を強化し、市場の開拓に努めました。BtoB市場においては、新製品のデジタルミキサーの上市により、従来の録音再生機や各種周辺機器とともに、更に柔軟で質の高いトータルシステムソリューションを提供し市場シェアの拡大を目指してまいりました。情報機器事業は、当社のコアコンピタンスである「高度な記録と再生

連結業績ハイライト（国際会計基準）

	第73期 2021年3月期	第74期 2022年3月期	第75期 2023年3月期
売上収益（百万円）	14,589	16,004	15,699
営業利益（百万円）	508	654	563
税引前当期利益（百万円）	342	481	341
親会社の所有者に帰属する当期利益（百万円）	301	392	305
基本的1株当たり当期利益（円）	10.45	13.60	10.60
資産合計（百万円）	9,651	10,081	10,958
資本金合計（百万円）	1,844	2,468	3,112

技術」をベースに計測、半導体、医療、移動体の各分野において最先端技術を組込んだ製品開発を行い、ニッチトップポジションの獲得を進めてまいりました。特に今年度は、新たに開発した4Kメディカルレコーダーの積極的な海外市場開拓に、資源を投入してまいりました。

当連結会計年度におきましては、コロナ禍において低調に推移していたBtoB事業が回復傾向にあるものの、半導体を中心とした電子部品の調達難と前期の巣ごもり需要で好調であったBtoC事業の反動減により、売上収益および営業利益は前期と比較して減少しました。

また、為替相場の変動に伴い為替差損を5千2百万円計上し、親会社の所有者に帰属する当期利益についても前期と比較して減少しました。この結果、当社グループの連結会計年度の売上収益は156億9千9百万円（前期比1.9%減）、営業利益は5億6千3百万円（前期比13.9%減）、親会社の所有者に帰属する当期利益3億5百万円（前期比22.0%減）となりました。

利益配分に関しては、2022年5月13日に開示いたしました「株主還元に関する基本的な方針」に記載の通り、中長期的な企業価値向上のために人材、技術開発、ブランド価値向上等の成長投資に資金を投下し、機動的な経営を可能にするための内部留保の適正な水準を維持しつつ、株主の皆様への還元を最大化することを株主還元の基本方針といたしました。当期の期末配当につきましては、当事業年度において同方針で配当再開の目安といたしました自己資本比率25%を超えた事から当初の予想通り1株当たり1円となりました。

また、次期の配当につきましては、業績及び財務状況の向上に努め上述の方針のもとで年間配当予想を1株当たり1円（期末配当金）といたします。

次期の業績見通しについて

事業活動に大きな影響をもたらした新型コロナウィルス、中国・北米間の輸送期間の長期化と輸送コストの高騰、半導体を中心とした電子部品の調達難と価格高騰等については、当連結会計年度に一部でその反動を見せつつも概ね収束し、落ち着きを取り戻しました。

一方で、ウクライナ危機は継続し、加えてインフレの長期化、金融不安、投資停滞など世界景気の不確実性や、為替変動を含めた事業環境の不透明さは更に増しています。

このような環境のもと、当社グループは、当連結会計年度からの持続的な再成長を目指し、2025年3月期を最終年度とする中期経営計画「B-7030計画」を策定しました。

「B-7030計画」の第2期目となる次期におきましても、原材料価格は更なる上昇リスクを抱え、販売面において流通在庫の適正化にはもう暫く時間を要すると想定しております。その対応として、「B-7030計画」方針に則った新製品の適時導入と製品ポートフォリオ再編の加速や、当社が比較優位性を持つ製品の価格改定を実施し、併せて主要市場における販売体制の再構築を進めることで収益力を向上、2025年3月期の中期経営目標達成への戦略投資の原資確保および実行を確実なものとしします。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2023年3月

▼新中期経営計画については、こちらをご覧ください。

新中期経営計画

https://www.teac.co.jp/downloads/corporate/2022/20220513_ekrzer8a.pdf



音響機器事業 63.8%

売上収益 10,023百万円
(前期比 8.8%減)

セグメント営業利益 846百万円
(前期比 34.1%減)

ハイエンドオーディオ機器 (ESOTERICブランド)は、上半期にはブランド創設35周年記念のターンテーブルやパワーアンプ、また下半期にはSACDプレーヤーやセパレート・アンプなど多数の新製品が上市できました。国内市場は輸入ブランド製品の供給も安定し収益に寄与しました。海外市場では一部、中国、欧州で減収となりましたが全体では国内市場での販売が大きく伸び、増収となりました。

プレミアムオーディオ機器 (TEACブランド)は、国内、海外市場双方においてインフレ圧力やウクライナ危機に端を発する資源価格の高騰などが景気後退懸念として消費者心理に影響を与え、普及価格帯の製品の売上が減少した結果、全体では減収となりました。

音楽制作・業務用オーディオ機器 (TASCAMブランド)は、BtoB事業において通期に渡り設備向け定番製品の販売が安定した事と、第4四半期に業務用デジタルミキサーの海外出荷を開始した事、更には関連オプション製品の出荷開始による新製品効果もあって好調な販売となりました。BtoC事業においては、第4四半期に出荷開始したハンドヘルドレコーダーの新製品効果と前期末に上市した製品の販売が好調に推移したものの、前期売上をけん引した主力製品の販売は、巣ごもり需要の反動減により低調に推移しました。その結果、音楽制作・業務用オーディオ機器全体としては減収となりました。

- ハイエンドオーディオ機器
- プレミアムオーディオ機器
- 音楽制作・業務用オーディオ機器

オリジナルブランド

ESOTERIC TEAC TASCAM

情報機器事業 27.6%

売上収益 4,329百万円
(前期比 23.9%増)

セグメント営業利益 352百万円
(前期比 108.3%増)

機内エンターテインメント機器は、国内市場において保守サービスを中心に販売を積み重ねたこと、海外向け販売も保守用部品の出荷が好調に推移しました。また第4四半期には国内エアラインでの機内エンターテインメント用サーバーの全路線への導入もあり、結果として同部門では増収となりました。

計測機器は、データレコーダーにおいて市場の回復基調が見られ、国内・海外共に出荷が好調に推移しました。センサーおよびデジタル指示計においては、半導体製造装置市場の好況により出荷増となりました。大手プローバー装置メーカー向け出荷が当初計画を上回る水準で推移し、加えて下期からはシリコン製造装置関連メーカーからの受注も大きく伸び、結果として計測機器全体では大幅な増収となりました。

医用画像記録再生機器は、国内の消化器内視鏡向けレコーダーの販売が好調に推移、手術画像用レコーダーに関しても国内・海外共に好調を維持しました。新製品の4Kレコーダーは市場での評価も高く販売は好調に推移、また海外大手内視鏡メーカーへのOEM契約も決まりました。結果として医用画像記録再生機器全体では、増収となりました。

ソリューションビジネスは、ネットワーク・インフラの保守サービスや受託開発案件の積み重ねおよび年間を通じた医用向けサーバーの出荷が好調に推移したことから増収となりました。

- 機内エンターテインメント機器
- 計測機器 トランスデューサー
データレコーダー
- 医用画像記録再生機器
- ソリューションビジネス

オリジナルブランド

TEAC

売上収益
15,699百万円
前期比 1.9%減

その他事業 8.6%

売上収益 1,347百万円
(前期比 11.8%減)

セグメント営業利益 255百万円
(前期比 49.0%増)

- EMS事業
- 産業用光ドライブ

要約連結財政状態計算書

(単位:百万円)

	当期 2023年 3月31日現在	前期 2022年 3月31日現在
■ 資産		
流動資産	8,351	8,210
現金及び現金同等物	1,196	1,304
営業債権及び その他の債権	2,925	3,154
棚卸資産	3,862	3,400
その他の流動資産	368	352
非流動資産	2,607	1,870
有形固定資産	2,233	1,513
無形資産	143	147
繰延税金資産	36	15
その他の金融資産	138	135
その他の非流動資産	57	60
資産合計	10,958	10,081

要約連結損益計算書

(単位:百万円)

	当期 2023年 3月31日現在	前期 2022年 3月31日現在
■ 負債		
流動負債	5,316	5,852
借入金等	2,042	2,467
リース負債	448	312
営業債務及びその他の債務	1,281	1,458
引当金	717	693
未払法人所得税	21	44
その他の流動負債	806	878
非流動負債	2,531	1,761
社債及び借入金	1,083	619
リース負債	685	68
退職給付に係る負債	—	76
長期未払金	689	920
引当金	43	43
繰延税金負債	19	16
その他の非流動負債	13	19
負債合計	7,847	7,613
■ 資本		
親会社の所有者に帰属する持分合計	3,112	2,468
資本金	3,500	3,500
資本剰余金	11	11
自己株式	△ 122	△ 123
利益剰余金	2,194	1,809
利益剰余金 (IFRS移行時の累積換算差額)	△ 3,430	△ 3,430
その他の資本の構成要素	959	701
非支配持分	—	—
資本合計	3,112	2,468
負債及び資本合計	10,958	10,081

要約連結損益計算書

(単位:百万円)

	当期 2022年4月1日~ 2023年3月31日	前期 2021年4月1日~ 2022年3月31日
売上収益	15,699	16,004
売上原価	8,830	9,232
売上総利益	6,869	6,773
販売費及び一般管理費	6,363	6,127
その他の損益	57	8
営業利益	563	654
金融収益	6	3
金融費用	228	176
税引前当期利益	341	481
法人所得税費用	36	90
当期利益	305	392
当期利益の帰属先		
親会社の所有者持分	305	392
非支配持分	—	—

要約連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	当期 2022年4月1日~ 2023年3月31日	前期 2021年4月1日~ 2022年3月31日
営業活動による キャッシュ・フロー	294	△ 153
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 102	△ 136
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 333	△ 299
現金及び現金同等物に 係る換算差額	33	23
現金及び現金同等物の 増減額 (△は減少)	△ 108	△ 565
現金及び現金同等物 期首残高	1,304	1,869
現金及び現金同等物 期末残高	1,196	1,304

要約連結持分変動計算書 (2022年4月1日~2023年3月31日)

(単位:百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分						非支配 持分	資本 合計	
	資本金	資本 剰余金	自己 株式	利益 剰余金	利益剰余金 (IFRS移行時の 累積換算差額)	その他の 資本の 構成要素			
当期首残高	3,500	11	△ 123	1,809	△ 3,430	701	2,468	—	2,468
当期包括利益									
当期利益				305			305		305
その他の包括利益						337	337		337
当期包括利益合計	—	—	—	305	—	337	643	—	643
所有者との取引等									
自己株式の取得			△ 0				△ 0		△ 0
自己株式の処分			1				1		1
その他の資本の構成要素 から利益剰余金への振替				79		△ 79	—		—
その他の増減				0			0		0
所有者との取引等計	—	—	1	79	—	△ 79	1	—	1
当期末残高	3,500	11	△ 122	2,194	△ 3,430	959	3,112	—	3,112

※連結財務諸表の記載金額は百万円未満を四捨五入して表示しております。

Point 1 連結財政状態計算書

< 資産合計 >

現金及び現金同等物の減少108百万円、棚卸資産の増加462百万円、営業債権及びその他の債権の減少230百万円、有形固定の増加720百万円となり、前期末と比較し、878百万円増加となりました。

< 負債合計 >

リース負債の増加753百万円、営業債務及びその他の債務の減少177百万円、長期未払金の減少215百万円となり、前期末と比較し、234百万円増加となりました。

Point 2 連結損益計算書

< 売上収益・営業利益 >

コロナ過において低調に推移していたBtoB事業が回復傾向にあるものの、半導体を中心とした電子部品の調達難と前期の巣ごもり需要で好調であったBtoC事業の反動減により、前期と比較し、売上収益は、1.9%減少、営業利益は13.9%減少となりました。

Point 3 連結キャッシュ・フロー計算書

< 営業活動によるキャッシュ・フロー >

当期における主な内訳は、プラス要因として、減価償却費及び償却費の増加474百万円、営業債権及びその他の債権の増加387百万円、マイナス要因として、棚卸資産の増加280百万円であります。

< 財務活動によるキャッシュ・フロー >

当期における主な内訳は、プラス要因として長期借入れによる収入775百万円、マイナス要因として短期借入金の純増減額537百万円、リース負債の返済による支出370百万円であります。

要約貸借対照表

(単位:百万円)

	当期 2023年 3月31日現在
■ 資産の部	
流動資産	4,868
現金及び預金	708
受取手形	430
売掛金	1,533
商品	917
原材料	640
前払費用	146
関係会社短期貸付金	68
未収入金	319
リース債権	70
その他	54
貸倒引当金	△ 17
固定資産	6,470
有形固定資産	1,444
無形固定資産	46
投資その他の資産	4,980
繰延資産	13
資産合計	11,352

(単位:百万円)

	当期 2023年 3月31日現在
■ 負債の部	
流動負債	5,679
支払手形	309
買掛金	356
短期借入金	1,626
関係会社短期借入金	1,964
1年内返済予定の長期借入金	162
1年内償還予定の社債	100
リース債務	30
未払金	469
未払費用	156
未払法人税等	59
前受収益	14
前受金	59
預り金	28
賞与引当金	205
製品保証引当金	41
返品調整引当金	—
未払消費税等	66
その他	33
固定負債	1,342
負債合計	7,021
■ 純資産の部	
株主資本	4,330
資本金	3,500
資本剰余金	54
利益剰余金	898
自己株式	△ 122
純資産合計	4,330
負債及び純資産合計	11,352

要約損益計算書

(単位:百万円)

	当期 2022年4月1日～ 2023年3月31日
売上高	10,927
売上原価	6,872
返品調整引当金繰入額	—
売上総利益	4,055
販売費及び一般管理費	3,929
営業利益	126
営業外収益	240
営業外費用	200
経常利益	165
特別利益	4
特別損失	—
税引前当期純利益	169
法人税、住民税及び事業税	14
当期純利益	155

要約株主資本等変動計算書（2022年4月1日～2023年3月31日）

(単位:百万円)

	株主資本					純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	
		その他 資本剰余金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金			
当期首残高	3,500	54	743	△ 121	4,175	4,175
当期変動額						
当期純利益			155		155	155
自己株式の取得				△ 0	△ 0	△ 0
当期変動額合計	—	—	155	△ 0	155	155
当期末残高	3,500	54	898	△ 122	4,330	4,330

※単体財務諸表の記載金額は百万円未満を四捨五入して、表示しております。



TEAC

USB DAC/ステレオプリメインアンプ AI-303

『AI-303』は、わずか215mmの横幅のボディながら多彩なデジタル入力に対応したステレオプリメインアンプです。eARCに対応したHDMI端子を装備しているので、あとはお好みのスピーカーと組み合わせるだけで、テレビの音を簡単にグレードアップすることができます。小型の筐体はテレビ周りの置き場所にも困りません。

USB DACとしては、11.2MHz DSD、384kHz/32bitのハイレゾ音源に対応し、ストリーミングサービスのHD音質も高音質で再生可能です。USB接続にはUSB-C端子を採用しており、PCのみならず、スマホやタブレットを使っての高音質再生も手軽にお楽しみいただけます。

また内蔵のBluetooth®レシーバーにより、スマホの音楽をワイヤレスで再生できます。4極ジャックを採用したヘッドホン端子と新機能のクロスフィード機能により、ヘッドホンアンプとしても高性能な仕様となっています。アナログ入力も2系統搭載しているので、お手持ちのオーディオ機器との組み合わせも可能です。



ESOTERIC

スーパーオーディオCD/CDプレーヤー K-05XD

『K-05XD』は、歴史あるK-05シリーズの思想を継承しながらも設計プラットフォームの完全刷新により新たに生まれ変わりました。

専用に設計されたVRDS-ATLASトランスポート・メカニズム『ATLAS 05』を搭載し、DAC部にはディスクリート回路で構成された『Master Sound Discrete DAC』を採用したことで、音楽再生能力に更なる磨きをかけました。

またマスタークロック『Grandioso G1X』の開発成果を取り入れ、プレーヤー内蔵用の独自のディスクリート・クロック回路『Master Sound Discrete Clock for Digital Player』を搭載。ATLASメカニズム、大規模化された各回路ブロックと電源部を収納するシャーシは、内部をダブルレイヤー化して大型化。より一層上位モデルに近づいた気品のある佇まいは、大革新と呼ぶにふさわしい内容の充実をさりげなく主張します。

音楽愛好家を虜にしてきた銘機の系譜と新技術の邂逅が生み出す『K-05XD』の至福のサウンドを存分に楽しみください。



TASCAM

32bitフロート録音 6トラックポータブルレコーダー Portacapture X6

2021年11月の発売以来、世界中のクリエイターから絶大な支持を得ている次世代型ポータブルレコーダー『Portacapture X8』に続く最新モデルとして『Portacapture X6』を発売しました。大事な音を確実に録音するという製品コンセプトを核に2モデルを『Portacapture シリーズ』としてラインナップし、幅広い顧客層に向けてソリューションを提供します。

『Portacapture X6』は、『Portacapture X8』で好評を博した32bitフロート録音、タッチパネル操作によるユーザーインターフェースなど、基本性能はそのままに小型化を実現。中小規模コンテンツ制作向けに選定された仕様により、これからコンテンツ制作を始めるクリエイターから音響エンジニアまで、高音質な音声収録を手軽に行える音声レコーダーです。

高度で柔軟性が求められる音声収録現場には『Portacapture X8』を、小規模で高い機動性や取り回しの良さが求められる現場には『Portacapture X6』を、求められるワークフローによって最適なソリューションをご選択いただけます。



TEAC

ロードセルシグナルコンディショナー TD-SC1

2021年10月より販売開始した『TD-SC1』に、これまでのD/Aモデル、RS-485モデルに加え、国内でシェアの高いCC-Linkモデル、ワールドワイドでシェアの高いEtherNet/IP™モデルの2モデルがラインナップに追加されました。

これらの2モデルは、PLCにダイレクト接続ができるので低コスト・省リードタイムで生産現場への導入を実現可能です。

『TD-SC1』は主に、半導体製造装置、産業用ロボット、FA装置等のロードセルの加圧力制御に用いられ、ロードセルの微小な電気信号を、制御装置の仕様に合わせた出力に変換するシグナルコンディショナーです。ティアックのシグナルコンディショナーとしては最速の20,000回/秒の高速サンプリングや当社が推進するTEDSによるプラグ&プレイ機能の実装など、さまざまな機能を標準で搭載。

さらに、IoT化に対応したフィールドバス/フィールドネットワークを充実させることで、市場のニーズにお応えします。これからも、日々進歩するテクノロジーを捉え、現場の期待に応えることが出来る製品を提供していきます。

会社の概要

商号 ティアック株式会社
(TEAC CORPORATION)
本社 〒206-8530
東京都多摩市落合一丁目47番地
設立 1953年8月26日
資本金 35億円
事業年度 4月1日～翌年3月31日
代表者 代表取締役社長 英 裕治
従業員数 単体 237名 連結 618名

● 国内拠点

ティアック株式会社
本社 [東京都]
EMCセンター [埼玉県]
大阪営業所 [大阪府]
名古屋営業所 [愛知県]
エソテリック株式会社 [東京都]
ティアックマニファクチャリングソリューションズ株式会社 [東京都]
ティアックカスタマーソリューションズ株式会社 [埼玉県]
ティアックシステムソリューションズ株式会社 [東京都]

● 海外拠点

TEAC AMERICA, INC. [米国]
TEAC EUROPE GmbH [ドイツ]
TEAC UK LTD. [英国]
TEAC SALES & TRADING (ShenZhen) CO., LTD. [中国]
TEAC AUDIO (CHINA) CO., LTD. [香港]
DONGGUAN TEAC ELECTRONICS CO., LTD. [中国]

役員 (2023年6月26日現在)

代表取締役社長 英 裕 治
取締役 野 村 佳 秀
取締役(監査等委員) 林 健 二
取締役(監査等委員) 原 琢 己
取締役(監査等委員) 坂 口 洋 二

株式の状況

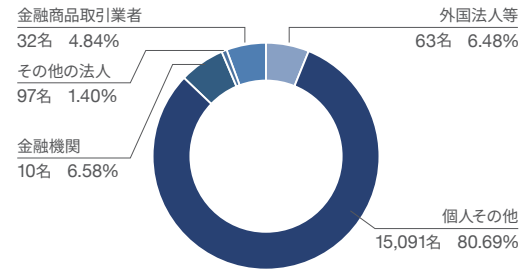
発行可能株式総数 … 40,000,000株
発行済株式の総数 … 28,806,531株
(自己株式125,182株を除く)
株主数 ……………… 15,293名

大株主 (上位10名)

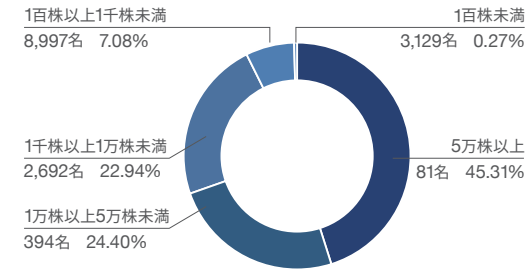
株 主 名	持株数 (千株)	出資比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,397	4.85
山下 良久	941	3.26
松尾 博	860	2.99
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140042	612	2.12
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140040	562	1.95
楽天証券株式会社	424	1.47
安藤 収	400	1.39
柴田 隆志	270	0.94
ティアック社員持株会	267	0.93
力丸 米雄	230	0.80

※ 持株数は表示単位未満を、出資比率は小数点第3位を四捨五入して表示しております。
※ 持株比率は、自己株式(125,182株)を控除して計算しております。

株式所有者別状況



株式所有数別状況



株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日
配当金受領株主確定日 3月31日
単元株式数 100株
定時株主総会 毎年6月
株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関

同 連 絡 先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日網町1-1
TEL 0120-232-711 (通話料無料)
(郵送先)〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
上 場 証 券 取 引 所 東京証券取引所 スタンダード市場
公 告 の 方 法 電子公告により行う。
公 告 掲 載 URL <https://www.teac.co.jp/about/jp/koukoku>
(ただし、やむを得ない事由により、電子公告によること
ができない場合は、日本経済新聞に公告します。)

【株式事務に関するご案内】

1. 各種お手続きのお問合せ窓口について
株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。

2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きについて
特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店でもお取次ぎいたします。

単元未満株式をご所有の株主様へ

単元未満株式(100株に満たない株式)の買取請求のご案内

単元未満株式(100株に満たない株式)については、「単元未満株式の買取請求」により、当社に売却していただくことができます。
当社は、単元未満株式の買取請求に係る当社手数料を無料(注)としておりますので、本制度のご利用をご検討くださいますようお願い申し上げます。
(注) 無料となる手数料は当社に係る手数料です。証券会社等において取次手数料等がかかる場合もあります。



● 証券会社等の口座でご所有の株主様
お取引のある証券会社等にお問合せください。

● 特別口座でご所有の株主様
(証券会社等にお取引口座がない株主様)
特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部(TEL 0120-232-711<通話料無料>)にお問合せください。

ティアック株式会社

〒206-8530 東京都多摩市落合一丁目47番地
TEL 042-356-9100 (代表)
ホームページアドレス <https://www.teac.co.jp/jp/>